



# 「つみたてNISA」の普及に向けて

金融庁総務企画局 政策監理官  
八幡道典

## 1. はじめに

本年1月、「つみたてNISA」がスタートしました。

金融庁は、家計の安定的な資産形成の実現を政策課題の柱の一つに掲げており、その方策の一つとして、投資未経験者が投資を始めるのに適した「つみたてNISA」を導入しました。

ここでは、そもそもなぜ金融庁が「家計の安定的な資産形成」を推進するのか、なぜその手段として「つみたてNISA」を推奨するのかについて解説し、この「つみたてNISA」を普及するために行っている様々な取組みを御紹介します。

## 2. なぜ金融庁が「家計の安定的な資産形成」を推進するのか

「人生100年時代」と言われる現代において、家計が安定的に資産形成を進めることの重要性はますます高まっています。しかしながら、我が国の家計の資産形成は必ずしも順調に進んでいるとは言えません。

我が国の家計金融資産(約1,800兆円)の過半(約52%)は現預金が占めており、株式・投信等の占める割合は2割弱と、米英に比べてかなり低い水準にとどまっています。金利が低い預貯金では資産を十分に運用することはできず、この20年間の家計金融資産の伸びは、米国が

約3.3倍、英国が約2.5倍であるのに対し、我が国は約1.5倍にとどまっています。もちろん勤労による収入によって資産を増やすことは大切ですが、欧米諸国と同様、せっかく蓄えた金融資産にも、もう少し働いてもらうことも考えていく必要があります。

実は、米国の家計も、かつては現在の日本と同程度の株式・投信等の保有割合でしたが、401kやIRA(個人向け確定拠出年金)の導入のような政策対応により株式・投信等の比率が上昇し、家計の金融資産も増加したという経緯があります。日本においても、政策的な対応も通じて家計の安定的な資産形成を後押ししていくことが重要です。

## 3. なぜ「つみたてNISA」なのか

ではなぜ、資産形成の手段として「つみたてNISA」を推奨しているのでしょうか。

アンケート調査などで投資をしない理由を尋ねると、「まとまった資金がない」という理由が挙げられます。しかし、本来、資産形成のための投資は、資金が貯まったから行うのではなく、逆に少額ずつでも投資しながら貯めるといった考え方であるべきで、そういう発想に転換を促していくことが重要です。

また、「時間がない」「投資は損をしそ

うで怖い」といった理由も多くみられます。確かに「投資」に絶対はありません。しかし、積立という手法を使えば、投資時期の分散により、いわゆる高値掴みのリスクを軽減できますし、投資対象を分散すれば、特定の投資対象が原因となるリスクの影響を限定できます。手間暇もかかりません。積立・分散で保有した商品を長期間運用すれば、元本割れのリスクも低くなるのが過去の実績からも示されています。

こうした点を踏まえ、「つみたてNISA」の制度設計が行われました。投資額が年間40万円以内であれば20年間の長期にわたり非課税で運用できます。また、投資手法を積立方式に限っていることで、いっような金融商品を買ったらいいか分からないといったことで悩むことはありません。対象商品も、手数料が低水準であるなど金融庁が定めた要件を満たす、長期・積立・分散投資に適した一定の投資信託だけに絞りました。いわば「失敗しにくい」商品で、「失敗しにくい」投資方法で購入するわけですので、投資未経験者の方でも利用しやすい仕組みとなっております。

## 4. 「つみたてNISA」の普及に向けた取組み

しかしながら、そもそも投資経験のない人の約8割が「資産形成のために投

# 「未来のあなたのために～人生とお金と資産形成～」

(資産形成促進のためのビデオクリップ教材)

・金融庁 NISA 特設ウェブサイトにて閲覧・ダウンロード可

<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/index.html>



から  
形成  
かめ  
こじ  
は資  
この  
資産  
の時間

長期



積立



分散



資は不要」と考えているのが現実であり、そう簡単に「つみたてNISA」が広く家計に普及することはありません。そこで、一般の方々にとって身近な環境で、資産形成のきっかけを持つていただくことが大切ではないかと考え、その一つのカギとして「職場」に着目しました。資産形成のための手法としては、「つみたてNISA」のほかに「iDeCo」もあり、取

り扱う金融機関の情報、それに関連した投資教育などを、職場で職員に対して提供することができれば、自ら思い立って金融機関に足を運んだり、ウェブ経由で申し込んだりというアクションには二の足を踏む人にも、資産形成を検討する機会を持つていただくことが可能になります。

このような「職場の活用」を進めるために、「随より始めよ」ということで、まず金融庁が、自らの職員向けの仕組みとして、「職場つみたてNISA」という試みをスタートしました。さらに本年2月に閣議決定された「高齢社会対策大綱」では、この試みが金融庁だけではなく政府全体の取組みとなるよう、政府が率先して「職場つみたてNISA」を推進し、地方自治体や企業における同様の取組みを促していく旨が明記されました。最近、私自身いくつかの地方自治体を訪問しましたが、すでに導入する旨を明らかにされた東京都をはじめ、多くの自治体で準備を始めていただいています。今後は、官公庁のみならず、民間企業にも広く、「つみたてNISA」を活用した資産形成に向けた取組みを促していきたいと考えています。

積立は、ニーサ!



つみたてワニーサ

また、「つみたてNISA」に関する情報を、より多くの方々に知っていただくためには新たな情報発信のチャネルを活用することも重要と考えています。例えば、スマホやタブレットを情報源とする若い層に対して有効に働きかけを行うため、投資初心者にとっても有益な意見や情報を発信している個人ブログ等との

このほか、金融庁では、NISA推進・連絡協議会とともに、金融広報中央委員会などの関係団体の協力を得て、特に若い世代を念頭においたビデオクリップ教材「未来のあなたのために～人生とお金と資産形成～」を制作しました。この教材は、職場での投資教育のセミナーをはじめ、ファイナンシャル・プランナーによるセミナーなど、様々な場所で活用されることを想定しています。各3分程度の3本の構成(計約10分)になっており、一部だけでも見やすくなっていますので、ぜひ金融庁のウェブサイトにアクセスし、ご覧いただければと思います(上記図表参照)。



八幡道典 はばみちのり

平成6年、大蔵省(当時)に入省。ドイツ留学、財務省理財局や同省主計局、徳島県庁等を経て、平成29年、金融庁総務企画局政策監理官。金融税制や金融経済教育を担当。

意見交換を全国各地で開催しています。最近、「つみたてNISA」のキャラクターを公募し、一般投票などを経て「つみたてワニーサ」が決定しました。今後、様々な場所でワニーサにも活躍してもらうつもりですが、まずは、ワニーサのTwitterアカウント(@wa\_nisa\_fsa)をフォローしていただければと思います。

## 5. おわりに

「つみたてNISA」は、我が国の家計の「投資」に対する考え方を大きく変える可能性を有しています。「つみたてNISA」の普及を通じて、我が国の家計が広く、投資の成功体験を積み重ねていくことができれば、家計の安定的な資産形成も進んでいくのではないかと期待しています。それは、ひいては日本の企業や日本経済の発展にもつながるものと思います。そのような好循環の実現に向けて、金融庁としても一層努力していきたいと思えます。